

行政視察報告書

視察日：2024年1月17日

視察先：児童養護施設 つつじが丘学園

参加者：岡谷市議会会派「おかや未来研究室」

1. 視察の目的

つつじが丘学園は、岡谷市内における児童養護施設として、家庭での養育が困難な子どもたちに対し、生活の場を提供するとともに、成長と自立を支援する役割を担っている。今回の視察では、施設の運営状況や児童の生活環境について理解を深めるとともに、市として協力できる支援策を探ることを目的とした。

2. 施設概要

つつじが丘学園は、昭和26年に「塩嶺学園」として設立され、その後昭和41年に現在の名称へと変更。平成13年に社会福祉法人つるみね福祉会に経営移管された。現在、児童養護施設としての機能に加え、地域小規模児童養護施設「さつきの家」・「みつばの家」、児童家庭支援センター「つつじ」、小規模認可型保育所「郷原つつじ保育園」などの関連施設を運営し、地域に根ざした支援を展開している。

3. 視察内容

視察では、川瀬園長より施設の案内を受け、以下の点について説明を受けた。

- 施設の運営状況：
 - 児童の生活環境や支援体制
 - 施設間のICT化や業務効率化の取り組み
 - 職員のサポート体制の強化
- 児童の現状と課題：
 - 入所児童の状況や家庭復帰に向けた取り組み
 - 児童の自立支援のための方針や支援策
 - 中間施設（グループホーム）の増設に関する課題
- 地域との連携：
 - 「こども宅食」の実施
 - 近隣地域との協力体制
 - 施設の社会的役割の拡大

施設では、様々な理由で家庭での養育が難しい子どもたちに安定した生活環境を整え、安心して暮らせる場を提供している。また、園長でありセンター長でもある川瀬氏は、県の児童福祉施設連盟の会長も務め、子どもたちが安全で安心できる環境づくりに向けて積極的に活動している。近年、家庭のあり方や社会状況が大きく変わる中で、孤立や孤独を防ぐことが重要な課題となっており、施設としても地域と連携しながらその対応に努めている。

また、管理棟や生活棟の見学を通じ、児童養護施設や児童福祉法の説明、具体的な取り組みや地域課題についても理解を深めた。施設職員の熱意や取り組みが印象的であり、今後市として協力できることを検討していく必要があると感じた。

4. 視察を通じた考察

視察を通じて、つつじが丘学園が地域における児童福祉の拠点として重要な役割を果たしていることを再認識した。特に、中間施設（グループホーム）の増設や「こども宅食」の実施など、市として協力できる支援策が数多くあることが確認された。

今後、市としては、以下の点を検討する必要がある。

1. **施設支援の充実**：施設間の ICT 化の推進や職員の労働環境改善を支援する。
2. **地域との連携強化**：「こども宅食」事業への支援や、施設と地域社会をつなぐ仕組みの構築。
3. **児童の自立支援策**：社会に出る際の準備として、職業訓練や教育支援を強化する。

5. まとめ

つつじが丘学園の視察を通じて、施設が地域に根差した養護と支援を提供していることが分かった。施設職員の熱意や、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みが印象的であり、今後、市としてどのような支援が可能かを引き続き検討し、児童福祉の向上に寄与していきたい。

報告者：土橋学